

平成22年度 学力向上のための学校改善プランの検証シート

学力向上の具体的な到達目標 ※転記

- ・全国学力学習状況調査結果を、昨年度結果より5ポイントアップする。
- ・学力を支える体力面での一層の向上を目指し、年間を通じての体力づくりを教科体育及び教科外体育で計画的継続的に進め、遊びの多様化を図る。(一輪車→水泳→マラソン→なわとび等、季節に応じた運動遊びを実施し評価する)
- ・わかる楽しい授業を展開するために、年間を通じた校内外の研修を実施する。公開授業一人3回程度。校外研修年間延べ回数60回程度とする。

大豊町立大田口小学校 校長名：島崎 雅彦

「平成22年度学力向上のための学校改善プラン」に取り組んだ検証の状況について、簡潔に記入してください。その際、年度初めに作成した計画にかぎらず、中間検証で改善したことなど、より成果を上げるために工夫していることがあれば、適宜、反映してください。

評価項目	取組内容の評価指標 ※転記	評価	その評価をした理由・その要因など	より改善を進めるための今後の取組や課題など	成果のあった取組
『学力向上のための学校改善プラン』の「2 学力向上の具体的な到達目標」に記載していることに対する評価		A ○ B C D	・全国学力学習状況調査結果は高知県で1番の数値結果であり、CRT検査においても総合評定Cの児童は一人もいないから。 ・体力テストの結果もDとE判定の児童は一人もいないから。 ・学校評価結果において、児童保護者の学校満足度及び授業満足度はいずれもほぼ100パーセントの肯定的評価結果が出されているから。	・県教委等の事業や町教委等の事業の支援をいただき、一人一人の教職員の資質、指導力を向上させていくこと。 ・授業改善に係る事前研究や事後研究の在り方を工夫改善していくこと。 ・外部講師を有効に活用すること。	・外部講師の効果的な招聘により、教員の授業改善が進んだ。 ・県外研修の積極的な実施により、教職員の意欲の向上を図ることができた。
『学力向上のための学校改善プラン』の「3 2の目標を達成するための今後の具体的な取組」の各項目に記載していることに対する評価	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	A ○ B C D	・評価指標の3項目すべてをクリアできたから。 ・ただ行っただけでなく、その取組成果を県内教職員に広く公開し、評価を受けたから。研究会には68名の教職員等の参加を得ることができたから。 ・学校教育以外の学習会を行い、人間力の向上を一定図ることができたから。	・県教委の事業が無くなることに対応して、本校における年間事業予算が削減されるため、残された予算を如何に有効的に活用するかを検討することが不可欠である。	・年度当初から県教委の指導主事に計画的、継続的に関わってもらい授業改善を進めたこと。 ・文部科学省より主任視学官を招き教育全体の方向性を確認できたこと。
	子どもにわかる授業づくり	A ○ B C D	・筑波大学附属小学校の研究会に、一人が2回出張し、その会で公開された授業を、実際に本校で行えたから。 ・子どもたちの自己表現力を向上させる取組の一貫として、研究発表会の全体会(約70名参加)の場で、本校の取組を堂々と発表できたから。	・書くことを通しての自己表現力の育成について、授業の定番化を図ること。 ・複式学級におけるICT機器の活用について研究を進めること。	・大型TVや教材提示装置、PC等を有効に活用した授業提案ができたこと。 ・町単配置のICT支援員と協力して、デジタル教材を多く作成したこと。
	学校全体で予習・復習(宿題)の質と量の高める取組	A B ○ C D	・放課後子供教室と連携し、午後4時ごろから5時ごろまでを学習の時間として、家庭学習の時間を補う取組を進めることができたから。 ・学校通信及び各学級の通信とも評価指標の数を上回る発信ができたから。ホームページの更新も年間200回程度実施できたから。	・家庭学習の手引を作成するとともに、その手引を町内3小学校で一定統一していくこと。	・文字指導や書写指導が進んだこと(子ども教室で指導)。
	その他	A ○ B C D	・体力づくりで具体的な連携を実施 ・体験活動を中心とした取組の継続	・教育版地域アクションプランや地域スポーツ人材活用事業などの予算を活用し、水泳、陸上、器械運動等、体育学習の基本となる領域について外部講師を招聘し、児童の技術指導及び教員の指導方法の工夫改善を進めることができたから。	・少人数における体育学習の在り方について研究する必要がある。 ・なわとびやマラソン、水泳などのカードを町内3小学校で統一すると、より児童の励みになる。

○印を入れて評価 A→全体として、到達目標以上に成果が上がっている B→全体として、到達目標を実現している C→全体として、到達目標を実現していない D→全体として、予定していることを実施していない

次のことについて、本年度の取組はどうでしたか。該当するものに○印を入れてください。	高知県国語学習シートの活用	ア 活用し、成果が出ている	○ イ 活用している	理由など： 学力向上の成果要因がこのシートと関連しているかどうかを判断する根拠がないため、アとは回答できない。
		ウ あまり活用していない	エ その他	
	算数・数学単元テストと算数・数学シートの活用	ア 活用し、成果が出ている	○ イ 活用している	
		ウ あまり活用していない	エ その他	
全国学力・学習状況調査の活用に関する研修会第2・3回持参資料	○	ア 実際に指導を行い、関連事項も意識し、指導を継続している	イ その指導は行ったが、関連事項を意識した指導はしていない	理由など： 学力向上の成果要因がこのシートと関連しているかどうかを判断する根拠がないため、アとは回答できない。
	ウ	次年度に取り組む予定	エ 取り組む予定はない	

次年度への引き継ぎ事項 (次年度のプラン作成の重点・留意点)
・本年度の取組を継続すること。 ・授業改善を中心とした研究体制を一層充実していくこと。 ・外部講師の積極的な招聘を行うこと。 ・各種事業の予算を有効に活用し、研究と修養に努めること。

※A4判用紙1枚に収めてください。